

都市再生整備計画 評価委員会資料 (大垣市中心市街地地区)

検討資料



平成22年11月24日(水)

大垣市 企画部 政策調整課

1. 都市再生整備計画 事後評価委員会とは

根拠

まちづくり交付金交付要綱 第8 都市再生整備計画の事後評価
まちづくり交付金事後評価実施要領 第5 評価委員会

目的

事後評価の手続き及び都市再生整備計画の目標の達成状況の確認等の結果について、その妥当性を審議し、不適切な点または改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。
今後のまちづくり等の内容の妥当性について審議し、不適切な点または改善すべき点があると認めた場合は、意見の具申を行う。

都市再生整備計画事後評価委員会での審議事項

方法書について…

事後評価を実施する方法について記載した方法書の確認

成果の評価について…

まちづくりの目標を定量化した指標の数値目標の達成状況の確認

実施過程の評価について…

事業への住民参加やまちづくり体制の構築などの確認

効果発現要因の整理について…

成果の評価および 実施過程の評価結果に至った要因の整理

都市再生整備計画事後評価委員会での審議事項

今後のまちづくり方策について…

効果発現要因の整理結果を基に今後のまちづくりの方策を検討

フォローアップ計画について…

成果の評価について、今年度完了事業による事業効果の計測や目標未達成の数値目標について、翌年度以降のフォローアップ計画の確認

事後評価原案の公表について…

～ について実施した内容を取りまとめた原案をHP等で住民へ公表しているかの確認

その他

2. 都市再生整備計画事業とは

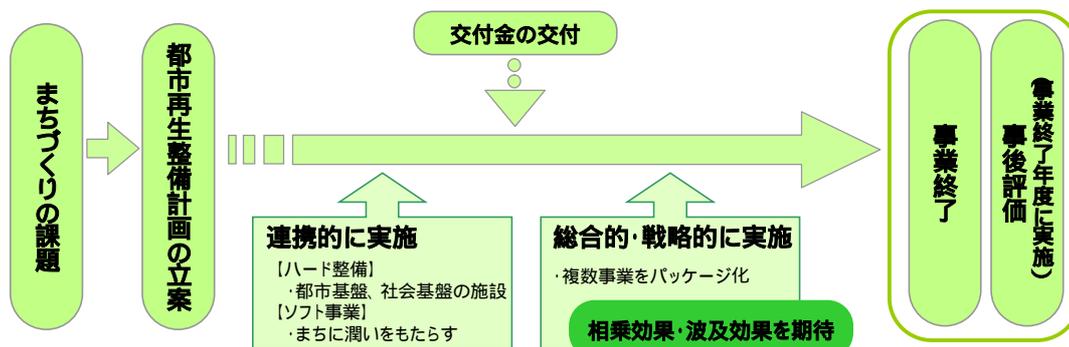
2.1 都市再生整備計画の概要

目的

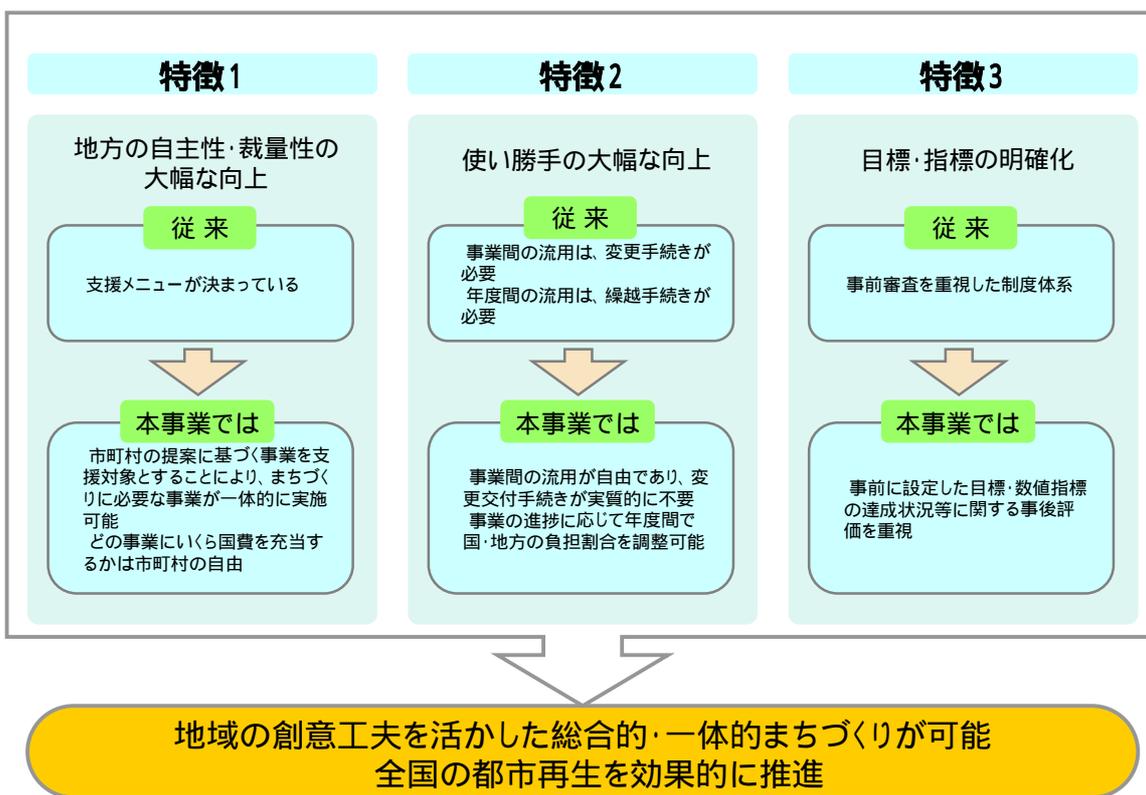
地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るための制度である。

制度の概要

事業(交付金交付)期間は1計画に対し、3～5年である。



都市再生整備計画事業の3つの特徴



交付対象事業

〈基幹事業〉

- 道路、街路、公園、河川、多目的広場、修景施設、地域・観光交流センター、公衆トイレ、案内板 など

〈提案事業〉

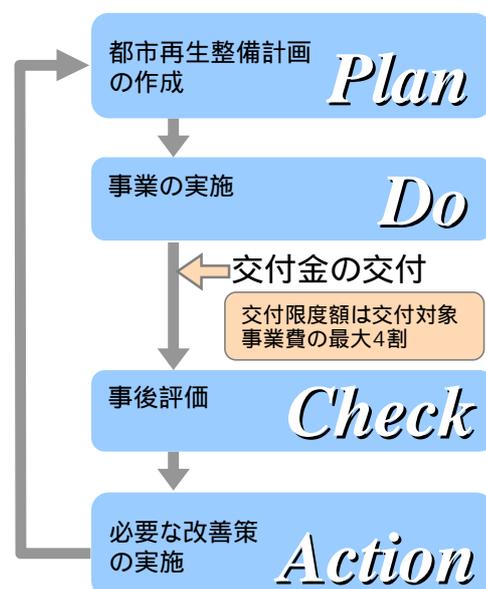
- 市町村の提案に基づく事業
- 各種調査、まちづくり活動、社会実験 など

〈関連事業〉

- 他の補助事業により補助を受けている事業 など

都市再生整備計画事業評価の概要

都市再生整備計画では、地域が抱える課題やまちづくりのビジョンに基づき、まちづくりの目標や数値指標を達成するために必要な事業を記載した都市再生整備計画を作成(Plan)し、成果を意識しながら事業を実施(Do)し、交付期間終了年度に目標の達成度を評価(Check)するとともに、必要な改善を速やかに改善する(Action)という一連のサイクルを導入している。



2.2 大垣市中心市街地地区における 都市再生整備計画事業の活用

まちづくりの課題

西濃圏域の中核を担うためには、中心市街地の再生、交通結節点機能の強化、駅南北の一体性の確保が必要とされている。

中心部の人口減少や中心商店街の衰退などによる中心市街地の空洞化が生じ、都心機能が低下してきている。歴史的、文化的遺産など本市の特色を生かした魅力的な公共空間の創出と風情ある都市景観の形成により、都心居住の促進と来街者の増加を図り、まちの賑わいを取り戻す必要がある。

大垣市は、地盤が軟弱で低く、多くの河川に取り囲まれているため、古来より治水を至上課題としてきており、安全・安心な都市生活を確保する防災機能の強化が重要な課題である。

本市の市民1人当たりの公園面積は、都市公園法施行令による標準からまだまだ低い水準にあり、市民に憩いと潤いを与えとともに、災害時の避難場所・防災拠点としての機能を持ち合わせている公園・広場の整備拡大が必要である。

解決するために...

都市再生整備計画事業を活用したまちづくりの実施

3. 大垣市中心市街地地区における 都市再生整備計画事業の概要

3.1 事業概要

地区名	面積	計画期間
大垣市中心市街地地区	730ha	平成18年度～平成22年度
目標		
大目標: 水・緑・歴史・文化と共生する都心づくり		
目標1: 賑わいと活力ある中心地の再生		
目標2: 歴史的資源を活用した特色あるまちづくり		
目標3: 安全・安心に住み続けられるまちづくり		

事業内容

〈基幹事業〉

道路

- ・市道南一色1号線

公園

- ・杭瀬川公園(南一色町地内)
- ・大垣公園
- ・楽田公園
- ・西公園

高質空間形成施設

- ・美濃路景観整備
- ・水門川橋梁緑化
- ・市道バリアフリー対策事業

地域生活基盤施設

- ・大垣駅北自転車駐車場整備
- ・大垣駅東自転車駐車場整備
- ・北公園防災施設設置工事
- ・大垣公園防災施設設置工事
- ・美和地区防災施設設置工事
- ・美和地区調整池設置工事
- ・第一女子高跡広場

高次都市施設

- ・自由通路(人工基盤)
(JR跨線橋部分)

事業内容

〈提案事業〉

地域創造支援事業

- ・市庁舎壁面緑化
- ・大垣城郭整備
- ・大垣駅南北自由通路(サービスコーナー)
- ・曽根川準用河川改修工事

事業活用調査

- ・事業効果の分析調査

まちづくり活動推進事業

- ・水都まちづくり楽校

事業内容

〈関連事業〉(参考)

- 市街地再開発事業
- 優良建築物等整備事業
- 既設跨線橋撤去工事
- 大垣駅北口広場整備
- 水路改良工事
- 導水路設置工事
- 世安排水機場ポンプ増設工事
- 緊急輸送道路沿いの建築物対策
- 神田神戸線道路改良事業
- 杭瀬川堤改修工事
- 笠縫堤遊歩道整備
- 昼飯大島線道路改良事業
- 市庁舎耐震補強工事
- きど保育園耐震補強工事
- ひまわり学園耐震補強工事
- 興文小学校耐震補強工事
- 南小学校耐震補強工事
- 北小学校耐震補強工事
- 興文中学校耐震補強工事
- 南中学校耐震補強工事
- 北中学校耐震補強工事
- 商店街空き店舗事業

総事業費

〈基幹事業〉

2,053百万円

+

〈提案事業〉

184百万円

=

合計

2,237百万円

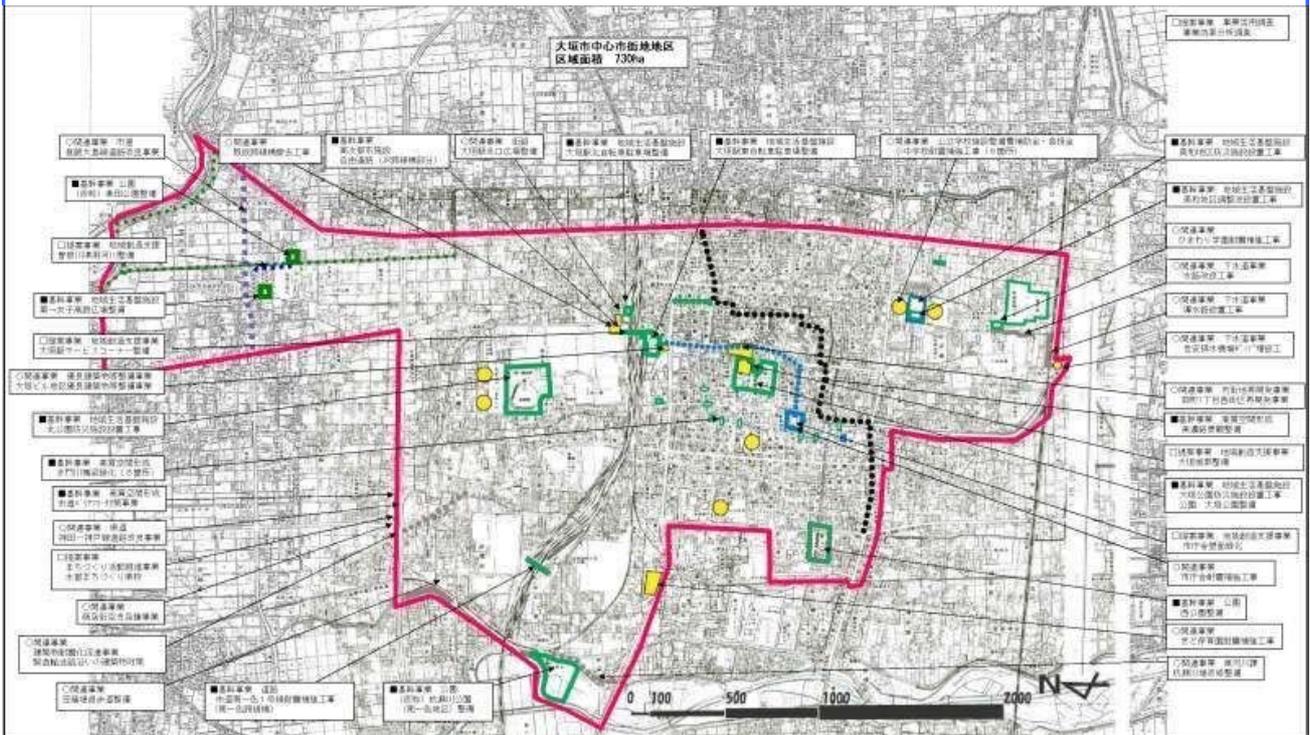
目標を定量化する指数

指標1: 地区内居住人口

指標2: 駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)

指標3: 大垣城年間入場者数

事業位置図



《基幹事業》 道路

事業箇所名

市道南一色1号線

事業スケジュール

平成20年度～平成22年度

事業内容

耐震補強



整備前



整備後

《基幹事業》 公園

事業箇所名

楽田公園

事業スケジュール

平成18年度～平成19年度

事業内容

遊具、せせらぎ、植栽工 A=3,088㎡



整備前



整備後

《基幹事業》 地域生活基盤施設

事業箇所名

北公園防災施設設置工事

事業スケジュール

平成20年度

事業内容

防災倉庫1基設置



整備前



整備後

《基幹事業》 地域生活基盤施設

事業箇所名

美和地区調整池設置工事

事業スケジュール

平成18年度～平成20年度

事業内容

= 3,470^m₂



整備状況



《基幹事業》 高質空間形成施設

事業箇所名

美濃路景観整備

事業スケジュール

平成18年度～平成22年度

事業内容

景観形成施設 (情報板設置 4基 修景物設置 5基)



整備前



整備後

《基幹事業》 高次都市施設

事業箇所名

自由通路(人工基盤)

事業スケジュール

平成18年度～平成21年度

事業内容

JR跨線橋部分 L=74m、W=8m



整備前



整備後

《提案事業》 地域創造支援事業

事業箇所名

曽根川準用河川改修工事

事業スケジュール

平成18年度～平成22年度

事業内容

ブロック積護岸工

整備前



整備後



《提案事業》 まちづくり活動推進事業

事業箇所名

水都まちづくり楽校

事業スケジュール

平成19年度～平成22年度

事業内容

住民参加による地域資源を活かしたまちづくりの学習



開催状況

4. 事後評価手続き等にかかる審議

4.1 方法書の作成

各評価項目について、いつ、どのように行うのかを記載した計画書(方法書)を作成し、都市再生整備計画事業の評価を実施し、事業の有効性を検証

(記載内容)

- (1) 成果の評価
- (2) 実施過程の評価方法
- (3) 効果発現要因の整理方法
- (4) 今後のまちづくり方策の作成方法
- (5) 事後評価原案の公表方法
- (6) 評価委員会の審議
- (7) 有識者からの意見聴取方法
- (8) 事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況

4.2 成果の評価(指標の達成状況)

目標を定量化する指標

指標1 : 地区内居住人口

指標2 : 駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)

指標3 : 大垣城年間入場者数

追加指標: 地域内における安心・安全な移動の満足度

H17年計画作成時

H22年事後評価時

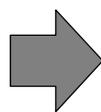
H23年以降フォローアップ



指標1: 地区内居住人口

当地区内に居住する市民の人数で評価する

平成16年度
36,127人 (従前値)



平成22年度	目標達成度
目標値 36,500人	
評価値(見込み値) 35,617人	

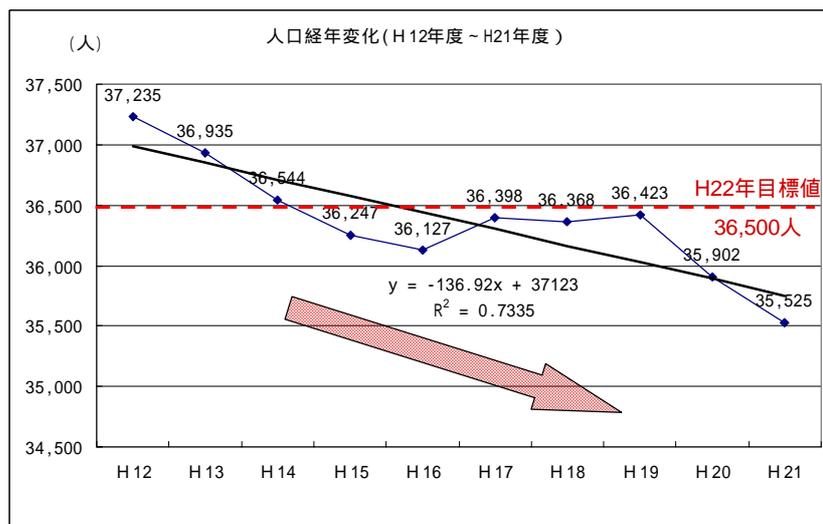
評価値 : 過去10年の推計による

フォローアップ: 平成23年3月31日時点

[効果発現要因]

平成20年のモニタリング実施時には緩やかな居住者人口の増加がみられ、従前値である36,127人を上回る36,423人と目標値に近づいていた。このことから、防災施設設置工事や市道バリアフリー対策事業などにより安心・安全なまちになって、地区内居住人口増加への効果が表れてきていたと推測できた。しかし、その後は大幅な居住者数の減少に転じた。目標を達成できなかった主な理由として、リーマンショック等の経済状況悪化による外国人居住者の減少が挙げられる。

指標1: 地区内居住人口



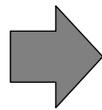
推計値 35,617(平成22年度推計) = $-136.92 \times 11 + 37,123$

人口減少傾向が著しく、目標値まで1,000人程度の差異がある

指標2: 駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)

駅南北を連結する自由通路の1日当りの通行人数により評価する

平成15年度
4,971人/日 (従前値)



平成22年度	目標達成度
目標値 6,000人/日	○
評価値(見込み値) 14,225人/日	

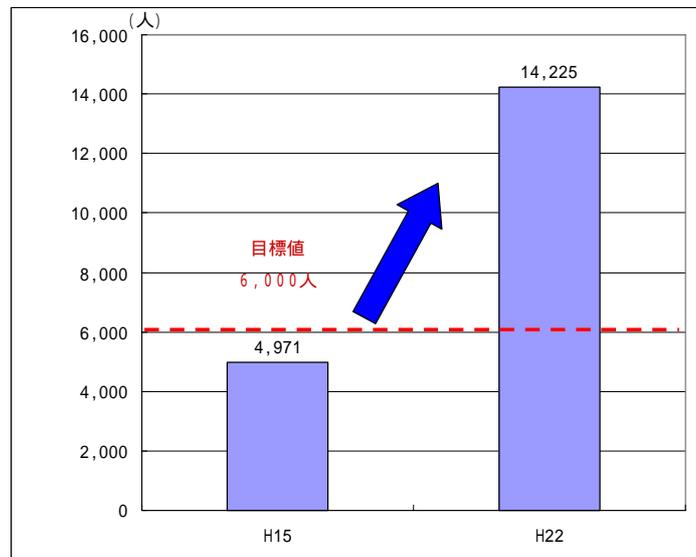
調査実施日: 平成22年5月27日(木)

フォローアップ: 平成23年5月計測予定

〔効果発現要因〕

大垣駅南北自由通路が整備され安全・安心・快適に通行できるようになった。
 駅北口周辺の商業施設や病院等の整備が進み、南北交流が活発化し、賑わいと活力が出てきている。
 駅跨線橋利用者が増加し、中心市街地の再生に寄与している。

指標2：駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)

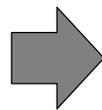


従前値の約2.9倍で目標値を約8,200人上回っている

指標3：大垣城年間入場者数

大垣城に入場した年間の人数により評価する

平成16年度
31,345人/年 (従前値)



平成22年度	目標達成度
目標値 35,000人/年	○
評価値(見込み値) 44,521人/年	

評価値:平成21年度入場者数

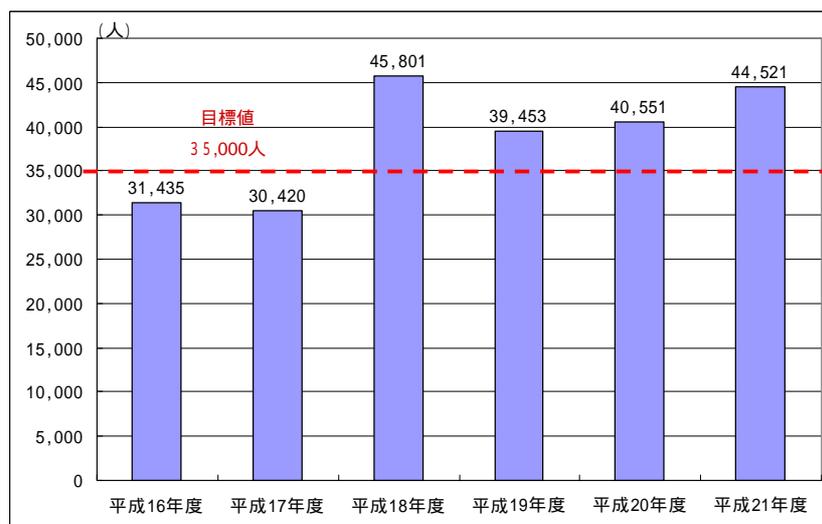
工事のため開館日数が少ないため推計を昨年実績値へ変更 (H22年6月)

〔効果発現要因〕

フォローアップ:平成23年度入場者数により評価

歴史的資源である大垣城は、大垣のシンボリック的存在であり、大垣城周辺の大垣公園や美濃路景観整備や水門川橋梁緑化等の整備の相乗効果により、都市住民に潤い空間を提供しているほか、多くの来訪者が訪れている。歴史・文化と共生する都心づくりが着実に進められている。近年の歴史やお城ブームも、入場者数増加を後押ししている。

指標3 : 大垣城年間入場者数



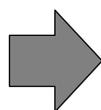
平成18年度は、4月～8月まで誕生記念事業により、無料
目標値を約9,500人上回っている

追加指標 : 地域内における安全・安心な移動の満足度

大垣市中心市街地地区アンケート調査による

平成17年度

72%
<参考値>
(従前値)



平成22年度

目標値
-
評価値(見込み値)
77%

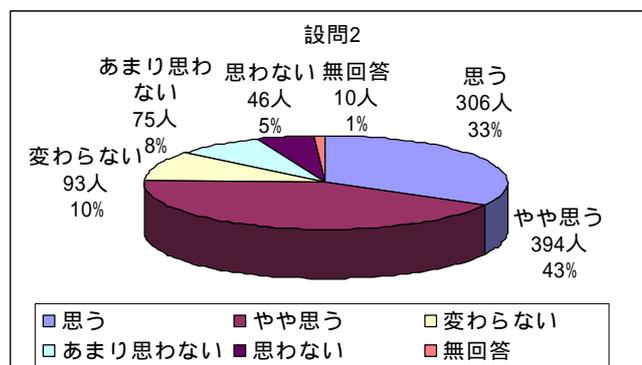
評価値 : 平成22年度アンケート調査結果
フォローアップ : 平成23年度アンケート調査を実施

〔効果発現要因〕

市道南一色1号線、大垣駅南北自由通路の整備、市道バリアフリー対策事業により、地区内の移動が安全・安心・円滑に通行できるようになった。移動の際の休憩施設としての役割が期待される公園整備の効果も現れている。これらのことから、安心・安全に住み続けられるまちとしての地区内移動の満足度が向上している。

追加指標：地域内における安全・安心な移動の満足度

設問：自由通路の整備によって南北交流が容易になるとともに、車椅子や高齢者の方でも安全・安心な移動が可能になった。



	H22年調査		H17年調査	
	設問2	参考値		
思う	306	33%	172	72%
やや思う	394	43%	-	-
変わらない	93	10%	56	23%
あまり思わない	75	8%	-	-
思わない	46	5%	9	4%
無回答	10	1%	2	1%
総計	924	100%	239	100%

77%



4.3 実施過程の評価

実施した内容

モニタリングの実施状況確認

- ・目標を定量化する指標の数値データ整理
- ・有識者からの意見聴取

住民参加プロセスの実施状況確認

- ・「大垣市都市再生整備計画」では、市民参画によるWSを開催し、計画を遂行した
- ・「水都まちづくり楽校」を開催し、WS等により地域の課題を学習する機会を提供

持続的なまちづくり体制の構築状況確認

- ・「水都まちづくり楽校」を開催し、WS等により地域の課題を学習する機会を提供し、まちづくりへの機運を高めている。

4.4 庁内会議での検討事項

第1回庁内会議:効果発現要因の整理に関する検討

第1回庁内会議
(H22.10.1)



第2回庁内会議:今後のまちづくり方策の方策に関する検討

第2回庁内会議
(H22.10.12)



第1回庁内会議:効果発現要因の整理に関する検討

成果の評価について

・定性的な効果がある。

大垣駅南北自由通路の整備により、まちの賑わいの創出に寄与し、街が明るくなった。また、駅北側・駅南側の両方向へのアクセス性が向上し、利便性がよくなった。

楽田公園はきれいに整備され、親子の憩いの場になっている。

大垣公園は、整備によって明るくなり、防犯性が向上したことから安心して歩けるようになった。また、親子が安心して利用できるようになった。

大垣城をはじめとした整備により、歴史的資源が活用され、まちの歴史的文化度が向上した。

水都まちづくり楽校の開催により、地域に対する愛着心の向上やまちづくりに対する関心・意識が高まった。

実施課程の検証について

・モニタリングの実施状況

目標を定量化する指標の数値データ整理

まちづくり交付金モニタリングシートを作成し、有識者から意見聴取

・住民参加プロセスの実施状況

「大垣市 都市再生整備計画」市民参画によるワークショップの開催

水都まちづくり楽校の開催

・持続的なまちづくり体制の構築状況

水都まちづくり楽校の開催

第1回庁内会議：効果発現要因の整理に関する検討

効果発現要因の整理について

数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

- ・ 駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)については、各種事業の相乗効果で駅跨線橋利用者数が増加しており、当初期待した以上の効果が発現している。
- ・ 大垣城年間入場者数については、社会情勢の後押し(歴史への関心の高まり)があったことや各種事業の相乗効果で大垣城の入場者数が増加しており、当初期待した以上の効果が発現している。

数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

- ・ 地区内居住人口については、平成20年度には目標値に近づき、一定の効果を見せていたが、急激な社会経済情勢の変化により目標を達成できなかったことにより、当初期待した効果が発現していない。
 - まちなか居住事業の導入(家賃補助、低家賃の高齢者住居の確保等)
 - 外国人居住人口に頼らず、定住人口の増加策を追加する必要

第2回庁内会議：今後のまちづくり方策の方策に関する検討

今後のまちづくり方策の検討について

- ・ 駅南北の一体性と利便性が向上し、南北自由通路の通行者が大幅に増加したため、駅北側に賑わいが創出された。
- ・ 美濃路景観整備や大垣城天守の史実性の高い復元・公園整備の相乗効果により、大垣城の入場者数が大幅に増加した。
- ・ 楽田公園や大垣公園、第一女子高校跡地等の整備で憩いと潤いのある公園が整備された。
- ・ 公園等への防災施設整備により、災害時の避難場所・防災拠点が整った。
- ・ 地区内の基盤整備は整ったが、地区内居住人口が減少した。
 - 地区内居住人口を維持し、まちの一層の賑わいを創出する。
 - まちづくり活動を活かし、さらなる市民協働意識の醸成を図る。
- ・ 大垣駅南口の利便性の向上や駅南地区の活性化による駅南側の一層の賑わいの創出が求められている。
 - 駅南口の利便性をより一層向上させる。さらに、駅北側と駅南側の交流を促進する。
- ・ 観光資源のPRや案内サイン等を充実させ、さらにまちの回遊性の向上を図ることが求められている。
 - さらなる観光地としての魅力向上にむけ、歴史的・文化的遺産を活用しつつ、案内サインを充実させ、回遊性を高める。
- ・ 市民への防災施設のPRによる、防災意識の向上を目指す。
 - 整備された防災施設を生かし、市民の防災意識を高める。

4.5 事後評価原案の公表

インターネット

大垣市ホームページ上で事後評価シート(様式2-1、2-2)を掲載

The screenshot shows the official website of the City of Gifu. The main content area is titled '都市再生整備計画 事後評価シート 大垣市中心市街地地区 (原案)'. Below the title, there is a section for '都市再生整備計画概要' (Urban Regeneration Plan Overview) and another for '都市再生整備計画の目的' (Purpose of Urban Regeneration Plan). The page includes various text blocks, images, and a table of contents.

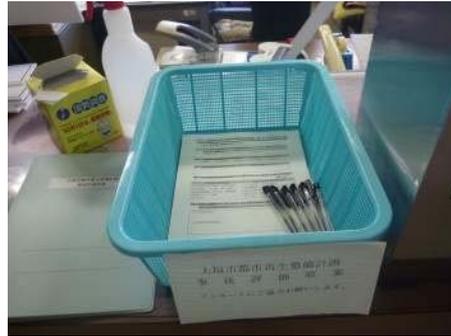
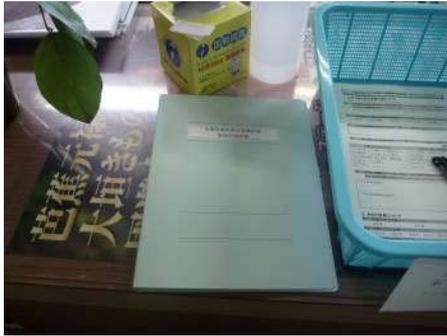
広報掲載

市広報紙(広報おおがき)で市のホームページに事後評価シートを掲載していること、および政策調整課の窓口で閲覧を行っていることを周知

The collage includes a copy of the '広報おおがき' (Gifu City Bulletin) newspaper, a newspaper clipping titled '危険業務従事者救済' (Rescue for Dangerous Job Workers), and a newspaper clipping titled '第60回 大垣市美術展' (60th Gifu City Art Exhibition). The newspaper clipping about the Urban Regeneration Plan is highlighted with a red box, showing the title '都市再生整備計画 事後評価原案の公表' (Publication of Urban Regeneration Plan Post-Evaluation Original Plan).

閲覧

政策調整課の窓口において事後評価原案を閲覧



その他

イベント(まるごとバザールインおおがき)において、事後評価シート(様式2-1、2-2)および主な事業をパネルで展示して市民への公表を実施



4.6 フォローアップ計画

指標1: 地区内居住人口

平成23年3月31日における住民基本台帳人口により、確定値とする。

指標2: 駅跨線橋利用歩行者数(両方向日平均)

H23年5月頃、大垣駅前で駅跨線橋(自由通路)を南北両方向から通行する人数を朝5時～深夜1時までの20時間計測・集計し、確定値とする。

指標3: 大垣城年間入場者数

平成24年4月に集計する平成23年度の大垣城年間入場者数を把握し、確定値とする。

その他の数値指標1: 地域内における安心・安全な移動の満足度

大垣市中心市街地地区居住者を対象にアンケート調査(郵送配布・郵送回収)を実施し、地域内移動における満足度を5段階で評価する。
アンケート配布数2,000世帯、有効票数400以上とする。

事業評価のスケジュール

